

3rd NSPICE Conference 開催

1. Conference 概要

2019年3月22日(金)、ウインクあいち（愛知県産業労働センター）において、3rd NSPICE Conferenceを開催いたしました。今回のテーマは「SPICEで変革に挑戦しよう – これからのディペンダビリティに向けて –」で、基調講演2件、特別講演2件、一般発表6件の講演及び発表を実施いたしました。

カンファレンスには、前回は上回る109名に参加いただき、活発な議論が行われました。情報交換会にも64名の方に参加いただき、リラックスした雰囲気の中で親交が深まりました。

講演者/発表者による有用な発表、参加者の方々による積極的な議論、後援団体による支援、プログラム委員及び当日ボランティアによる準備・運営などにより、本カンファレンスを成功裏に終えることができ、たいへん感謝しております。



【開催挨拶（テーマ設定の狙い）】

情報社会（Society 4.0）に続く未来社会として、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させた人間中心の社会（Society 5.0）を目指していくことが提唱されています。IoT（Internet of Things）、自動走行システム、サイバーセキュリティの確保など、さまざまな技術進化により、この社会変革を実現していくことになります。

技術者には、これらの技術進化に伴い、より複雑になるシステム・ソフトウェア開発において、ディペンダビリティ（総合信頼性）を確保していくことが求められています。ディペンダビリティという概念には、要求を正しく実現していることを検証・妥当性確認することに加えて、インシデント発生時などの説明責任が含まれています。SPICEを活用した組織プロセスの構築、組織文化の醸成により、説明責任を果たすことの可能な製品開発を実践できると考えています。

本カンファレンスでは、組織プロセスの構築や組織文化の醸成の手掛かりとなる講演や発表を用意しました。

【開催概要】

日程	2019年3月22日(金) 10:00～17:30
場所	ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
参加対象	SPICEに基づくプロセス改善やプロセスアセスメントに興味のある方
主催	日本 SPICE ネットワーク (NSPICE.NET)
後援	独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) International Assessor Certification Scheme (intacs) 日本 SPI コンソーシアム (JASPIC) 一般財団法人 日本科学技術連盟 (JUSE)

【カンファレンススタッフ】

実行委員長	古田 健裕（パナソニック株式会社）
プログラム委員	安倍 秀二（イーアンドエスコンサルティング） 河野 文昭（株式会社アドヴィックス） 近藤 聖久（三菱電機株式会社） 齋藤 幸裕（ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社） 田淵 一成（ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社） 萩原 一彦（株式会社デンソー） 三浦 邦彦（矢崎総業株式会社） 室谷 隆（TIS 株式会社）

2. 発表内容

2.1 基調講演

K-1 Alternation of Generations – How Our Way of Development Will Change With SPICE? –

<英語による発表（逐次通訳付）>

Process Fellows GmbH

Timo Karasch 氏

Intacs では、Mechanical SPICE や Hardware SPICE などの新しいモデルの開発に取り組んでいる。Automotive SPICE V3.0 において示されたプラグインコンセプトが、開発における世代交代の中でどのようなインパクトを与えていく可能性があるのか、幅広い視点からの講演をいただいた。



K-2 改善か動機づけか、どちらが効果的？ – 顧客満足(CS), 従業員満足(ES), +パートナー満足(PS) –

デバッグ工学研究所

松尾谷 徹 氏

人的資源を中心とするソフトウェア開発においては、プロセス改善はデリケートであり、不適切な結果（キケンな職場）をもたらすこともある。長年の経験とパートナー満足に関する調査・研究に基づき、現場力を高めるための気づきにつながる講演をいただいた。



2.2 特別講演

S-1 スーパーマン vs 天才 – 本質的なプロセス改善のための 3 つの奇異な質問 –

C&BIS 株式会社

蔡 光浩 氏

問題防止の重要性を示し、全員が天才というわけではないプロジェクトにおいて、Automotive SPICE に対する誤解を解き、効果的なプロセス改善を行うための新しい観点を提示した。

プロセスアセスメントモデルを理解しつつ、プロセス改善には、「ええあんばい」が重要であることを指摘する有用な講演であった。



S-2 ISO 26262 に基づくプロセス改善とプロセスアセスメントに関する手がかり

中国 SPICE ネットワーク

王 軼群 氏

ISO 26262 の運用において、多くの会社がさまざまな問題点を抱えており、プロセス面の改善が必要となっている。ISO 26262 及び他のプロセス規格との融合を考慮したプロセス監査の実施方法と注意点を紹介し、プロセス面の改善に有用なヒントを提示した。



2.3 一般発表

A-1 Automotive SPICE を活用した DO-178C の解釈に基づいた標準プロセス構築の提案

ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社

小西 晃輔 氏



民間航空機搭載ソフトウェアの認証において、ソフトウェア開発ライフサイクルプロセス(DO-178C)が定義されているが、目的指向のアプローチであり、活動の定義が不十分と感じられる面がある。それを補うために、Automotive SPICE を適用するアプローチを紹介した。

プロセス定義にモデルを活用する取り組みであり、有用な事例発表であった。

A-2 自律型アセッサー育成のためのプログラム

– アセスメントノウハウの伝承と教育 –

株式会社アドヴィックス

阪野 正樹 氏

社内アセスメントの実施にあたり、初級アセッサーを自律型アセッサーへ育成する取り組みを紹介した。個々のパーソナリティを把握すること、育成すべき点を明確にすることの重要性を指摘した。

取り組む中での具体的な課題も紹介され、実践的な、有用な発表であった。



A-3 事例紹介 車載の品質保証活動

– 品質はプロセスで作込み。プロジェクトの状況は「見える化」せよ。 –

日本電気通信システム株式会社

坂本 香理 氏



通信事業者向けを中心とするビジネスから車載事業へ参入するにあたり、開発特性の違いにより、車載向けの新規プロセス構築が必要となった。今までやってきた活動に加えて、品質データ分析など新規の活動を追加し、品質保証体系を段階的に構築するアプローチを紹介した。

組織の環境変化に伴い、開発部門、品質部門で連携して組織的に取り組んだ活動として、有用な事例発表であった。

A-4 ソフトウェア開発における Automotive SPICE に準拠したモデルベース開発ガイドラインの強化と実行

－ 研究開発から量産開発まで一貫したモデルベース開発を目指して－

三菱電機株式会社

三宅 徹 氏

研究開発部門と量産開発部門とのシームレスな開発が求められている中で、量産開発に近い品質を確保しつつ、迅速に新規技術を開発するための研究部門向けのモデルベース開発ガイドラインを Automotive SPICE を参考に作成した取り組みを紹介した。

研究開発の特性を考慮しつつモデルを活用して強化した活動として、有用な発表であった。



A-5 Automotive SPICE ガイドラインに基づくアセスメント支援ツールの開発

－ Automotive SPICE アセスメントの品質向上を目指して－

株式会社日立ソリューションズ

新海 良一 氏



「アセスメント実践研究会」において、Automotive SPICE アセスメントの品質向上を目指した活動を実施している。参加者の知識、経験に基づいた実務的な解釈を議論内容と、アセスメント時のルール適用をスムーズに行うために作成したアセスメント支援ツールを紹介した。

Automotive SPICE ガイドラインを活用する上で、有用な発表であった。

A-6 英語で読み解く Automotive SPICE 研究会 活動報告

パナソニック株式会社

藤山 晃治 氏

「英語で読み解く Automotive SPICE 研究会」において、英語の語意を紐解くことで、具体的な解釈を引き出し、モデルの理解を深める活動を実施している。頻出動詞及び Purpose を読み解く活動について紹介した。

着眼点が素晴らしく、モデルの理解を深める活動として、有用な発表であった。



3. 表彰 (Best Presentation Award)

「英語で読み解く Automotive SPICE 研究会 活動報告」

パナソニック株式会社

藤山 晃治 氏

参加者からのアンケート結果に基づく審査の結果、一般発表 6 件の中から Best Presentation Award を選定し、表彰しました。



4. 情報交換会

講演者も交えて活発な情報交換が行われました。

